

自治研 チャレンジサポートのススメ

1 「自治研チャレンジサポート」
ご存知ですか？

自治研集会では、日ごろの自治研活動をまとめた素晴らしいレポートが多数寄せられています。一方、そんなレポートの数々や分科会での発表をきいて、自治研活動には興味があるけど、自分たちには無理だなとあきらめていた方も少なくありませんでした。

そこで、自治研活動への一歩を踏み出してみたい人の気持ちをそっと後押ししようとして、レポートとしてまとめる段階のものではない、未来の自治研の「芽」となりうる企画を募集する「自治研チャレンジサポート制度」が、二〇一四年に誕生しました。

同年の佐賀自治研集会において、越前市公共サービスユニオン「自立支援・地域福祉研究会」と京都市学校給食職員労

働組合の二つのチャレンジが優秀企画賞を受賞し、自治研レポートとなる活動をめざした取り組みが続けられています。

そして、今年一〇月に開催される宮城自治研に向けて、新たに「自治研チャレンジサポート制度」の募集がはじまっています。

チャレンジポへは、自治研組合員であれば誰でも応募できます。またメンバーに自治研組合員が参加していれば、市民と一緒に作った「自治研部」などのチームでの応募でも大丈夫です。

チャレンジポが対象とするのは、①市民自治のゆたかな社会をめざそうとする活動、②職場や地域に自治研活動の浸透をはかる取り組みで、二〇一八年一〇月までに実施・活動完了する企画になります。宮城自治研集会において、参加者からの投票で、多くの票を獲得して優秀企画賞（若干数）に選ばれた企画は、活動の

ための助成金として最大一〇万円の補助が受けられます。また、二〇一八年に開催される第三七回自治研全国集会で活動報告としてレポートを提出してもらいます（応募方法の詳細については、自治研HPをご覧ください）。

チャレンジポへの挑戦を表明された静岡県本部和山形県米沢市職青年部のみなさんと一緒に、あなたも挑戦してみませんか？

〈そこ〉に行けば……

次ページ以降の報告にもあるように「できれば組合に関わりたくない」といつの若い組合員の本音であると認めるところから始めましょう。その上で「若手が新しい発案をしにくい雰囲気やお互いが議論しあう場が少ない」という職場の現状は、我々にとってピンチではなくチャンスなのでは。

〈そこ〉に行けば、話を聞いてくれる。何かおもしろいことやっている……そういう場を作ることこそが目的であり、それさえできれば自然と〈そこ〉で「じちけん」がはじまっているはずです。（自治研マイスター）

自治労静岡県本部

県本部全体の組織活性化のツールとして「じちけん」活動を活用しよう、若手組合員へのチャレンジサポート参加を呼びかけていきます。

二月八日に県本部の執行委員会を開き、自

——県本部として取り組もうと考えた理由を教えてください。

静岡県本部では自治研活動の歴史に燦然と輝く沼津市における分別収集の取り組みなど、昔は自治研活動が活発でした。しかし、現在は自治研活動だけでなく、青年部の組合活動などもあまり活発とはいえない状況にあります。

こうした背景には若手が新しい発案をしにくい雰囲気やお互いが議論しあう場が少ないという現状があります。

県本部としても役員の担い手不足や若者の組合離れという大きな問題に新しい取り組みが必要だと感じていました。そこで、下からの組合活動を活性化するためのツールとして自治研活動、とりわけ今回のチャレンジサポートは使えそうだと考えたからです。

——現在の動きについて教えてください。

自治研活動の活用とチャレサポへの参加を単組に呼びかけることを決めました。また、二月二二、二三日に、県内単組の青年部を対象とした研修合宿を開催し、参加した一単組一四名に自治研活動への参加を呼びかけました。自治研活動を知らない人が多かったのですが、かなり関心を持ってくれたようで、第一歩を踏み出した感じでした。

——今後の展開を教えてください。

自治研活動は難しいというイメージを払しょくするため、青年部合宿の資料でもあえて「じちけん」としました。まずは青年部担当の執行委員が、各単組に出向き「じちけん、いっしょにはじめませんか！」と呼びかけを進めていきたいと思っています。そこで関心をもってくれた若い組合員向けの集会を開催し、「じちけん」で何ができそうか、何をしてみたい

かという議論を深めていきたいと思っています。

静岡県内でも自治研活動とは銘打っていないくても、組合員によるユニークな取り組みも少なくありません。こうした先輩組合員の活動を発掘していくというのもぜひやってみてほしいと思っています。

また、こうした動きは、県本部の機関紙でも「じちけん」コーナーを設けて紹介していきたいですね。呼びかける私たちも肩の力を抜いて、県内の若手組合員と一緒に、「じちけん」を楽しみたいと思います。



取り組みを担う執行委員長の渡邊敏明さん、執行委員の佐野ひかるさん、河合克樹さん（左から）。

山形県本部米沢市職労青年部

UNDER35企画「ゆるプロ」にメンバーが参加したことをきっかけに、まずはやってみようという自治研チャレンジサポート応募をめざします。

UNDER35「ゆるプロ」やその後の『月刊自治研』座談会

——今回、チャレンジサポートへの挑戦を決めた時の心境をお聞かせください。

二〇一五年度から教宣紙の発行や勉強会の定期的な開催など、青年部の活動が目に見えるようになったタイミンがだったので、チャレンジサポートへの挑戦は青年部の活動をより活性化させるよ

への参加によって組合活動への可能性を感じられました。組合活動に興味のない青年部員にどうアプローチするか悩んでいて、組合らしくない組合活動が必要と感じていたところだったので、すべてが繋がった気がして、他の青年部員役員に相談し挑戦することを決めました。

——青年部の皆さんは、自治研活動にどんなイメージをもたれていましたか。

組合活動の一環なのかな？ぐらいのイメージでした。僕たち若い世代は組合員ですが、一方で組合に興味もなければ、近づかないし、できれば関わりたくない（笑）。でも、実際に自治研活動に参加した体験を通じて、仕事への取り組み方や職員同士の横のつながりを深める大切な場であることを学び、イメージは大きく変わりました。

米沢市職労青年部では、チャレサポで

具体的には何を取り組むかというテーマ設定や、若手職員に参加してもらおうことが課題となっています。そこで、他の自治体の先進的な自治研活動の取り組み事例や、どのように若手職員の参加を促したかなどを知りたいですね。

——最後に、チャレサポをめざす意気込みをお聞かせください。

メンバー全員がゴールの見えない状態でのスタートです。でも、ともに考えもがきながら意見をまとめて形作っていく過程を楽しみたいと思います。これを機に青年部員が組合活動にも興味を持って参加し、参加した青年部員同士が交流し団結すること、そして連鎖して継続した自治研活動となることも期待しています。ぜひ温かく見守ってください。

山形県本部米沢市職労青年部●一九七四年に設立。現在メンバーは六五人で主に活動しているのは一〇人程度。二〇一五年度から学習会・交流会、教宣紙発行など定期的な活動を展開してきました。福井県鯖江市で開催されたUNDER35「ゆるプロ」に二名参加したのが、自治研活動との初めてのつながり。



チャレサポに挑戦する米沢市職労青年部のみなさん